

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ゆめわかば		
○保護者評価実施期間	令和8年1月7日		令和8年1月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	令和8年1月7日		令和8年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達の日ごろの様子、お休みや学校からの連絡事項等、保護者と職員間で細かい情報共有ができています。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携→1日の様子や情報を得るため、職員側から話しかけることを心掛けている。 ・保護者との連携→その日の活動の様子を丁寧に伝える。家庭での様子を伺う。 ・事業所アカウントのLINEを活用し、急遽の早お迎え、体調の心配事などの情報を当日利用開始前に連絡が取れる様になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対面口頭、連絡事項のホワイトボード掲示、グループLINEなどを使用し、引き続き情報共有を行う。
2	毎日の掃除、活動場所の整理整頓ができています。	<ul style="list-style-type: none"> ・主活動終了後、職員が役割分担をすることで掃除を行う時間を確保している。 ・活動で使用した物はその日の内に片付けるという基本を徹底して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の掃除の継続。 ・担当者が責任をもって片付ける。 ・気付いた箇所については、直ぐにお互いに指摘、フォローし合う。
3	子ども達の「楽しい」と「発達状況」に合わせた活動の設定。	<ul style="list-style-type: none"> ・週案担当者が活動担当者と相談し、取り組む内容に合わせた子どもの組み合わせ、配置職員を決める。 ・1日の活動において、特に重要視する支援のポイントを踏まえながら活動体制を立案している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週案及び活動担当者の事前相談をする時間を確保し、更に綿密な話し合いができるようにする。 ・週案担当者が子どもの発達状況、職員との関わり具合などを見極めた週案が組めるよう、子どもの発達状況において共通理解ができる場を増やす。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の事前打ち合わせ・事後フィードバックなど、話し合いを行う時間が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・出勤状況や送迎、お迎え対応などの都合上、話し合える時間の捻出が難しいと感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「時間の捻出ができないからやらない」ではなく、数分でもその場に居る職員で行う習慣を付ける。 ・会議の時間の使い方を見直す。 ・全員出席してもらうことに拘らず、話し合いの場を設ける。
2	第三者や保護者等の外部評価や関係機関との連携について、見聞きすることが少ない、知らない。	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組んでいることもあるが、担当以外の職員、保護者への周知ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議や通信での周知を行っていく。 ・掲示にて周知をしている事柄に関しては、掲示している旨を公に伝えて行く。
3	収納スペースが少なく、活動内容によってはスペースが狭く感じる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッカーや棚、机などを部屋の隅に配置、収納しているが、活動スペースを狭くしてしまう。 ・使用頻度の高い大きい物を収納するスペース確保が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物置や押し入れの整理、断捨離を行い、スペースを確保する。